

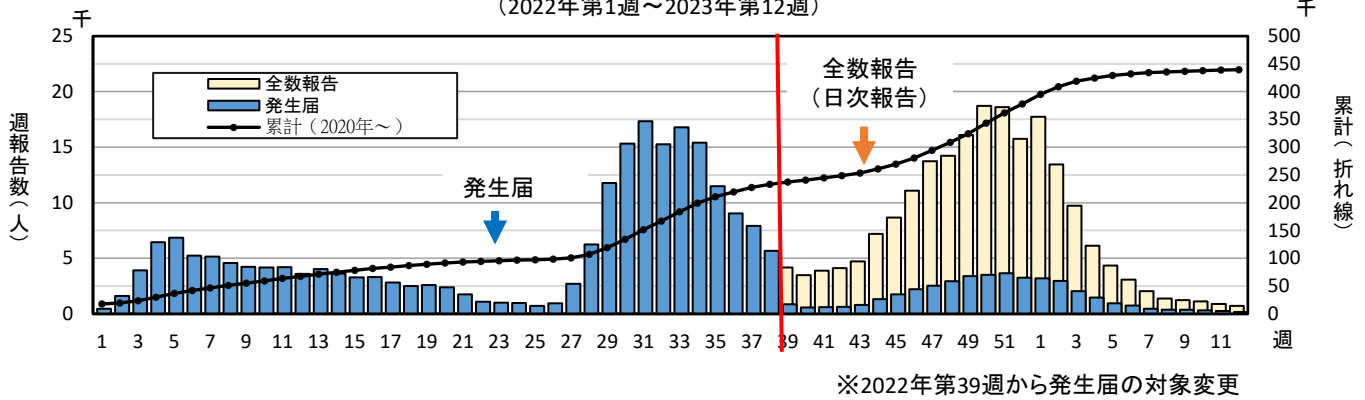
● 新型コロナウイルス感染症 (2023年3月28日 13:00現在 暫定値)

※2022年第39週からは感染症法第12条に基づく届出と全数報告をHER-SYSデータで集計

【2023年第12週 (3月20日～3月26日)】

- ◆ 発生届は180件で、第11週 (242件) から減少しました。86.1%が65歳以上でした。
- ◆ 全数報告は727件で、第11週 (876件) から減少しました。9.1%が健康フォローアップセンターからの報告 (自己検査陽性) でした。

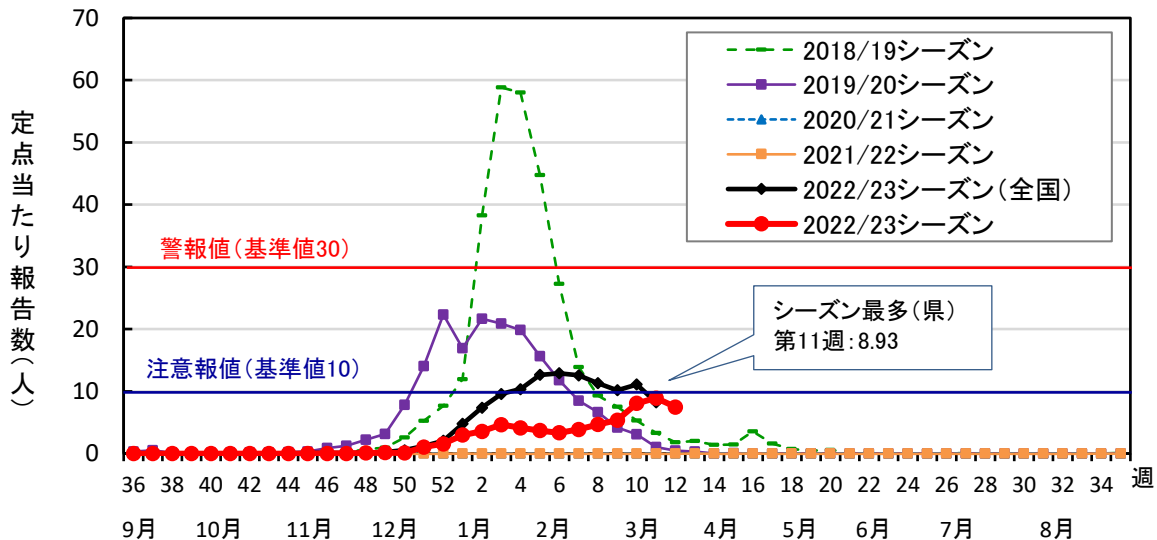
新型コロナウイルス感染症報告数の推移と累計
(2022年第1週～2023年第12週)



● インフルエンザ (定点報告疾患)

- ◆ 2020/2021シーズン、2021/2022シーズンは流行がありませんでしたが、2022/2023シーズンは2022年第51週 (12月19日～25日) に県全体で定点当たりの患者報告数が1.05となり、流行開始の目安 (基準値1.00) を上回りました。
- ◆ 定点医療機関の迅速検査結果は、A型が多くを占めています。

インフルエンザ患者報告数推移



●新型コロナウイルス SARS-CoV-2 ゲノム解析について(Vol.30)

新型コロナウイルスゲノム解析結果(2023年第11週(3月13日～19日)まで)

県内では、オミクロン株が2021年第50週(12月13日～19日)に初めて検出され、2022年第1週(1月3日～9日)以降、BA.1が主な流行となりました。

2022年第2週(1月10日～16日)に渡航歴のある患者からBA.2も検出されましたが、その後の拡大はみられていませんでしたが、第9週(2月28日～3月6日)以降、BA.2の検出が増加し、主な流行となりました。

第25週(6月20日～26日)以降、新たにBA.5が検出され、第30週(7月25日～31日)にBA.4が検出されましたが、現在もBA.5による流行が継続しています。

またBA.2.75.3(BA.2系統)が第38週(9月19日～25日)以降、BQ1.1(BA.5系統)が第44週(10月31日～11月6日)以降検出され、2023年に入り増加傾向となりました。その後、組換え体であるXBB.1及びXBC.1(BA.2系統組換え体)も検出され、5類感染症変更後も医療機関での検体収集の協力により、ゲノム解析による流行株の把握が引き続き重要と思われます。

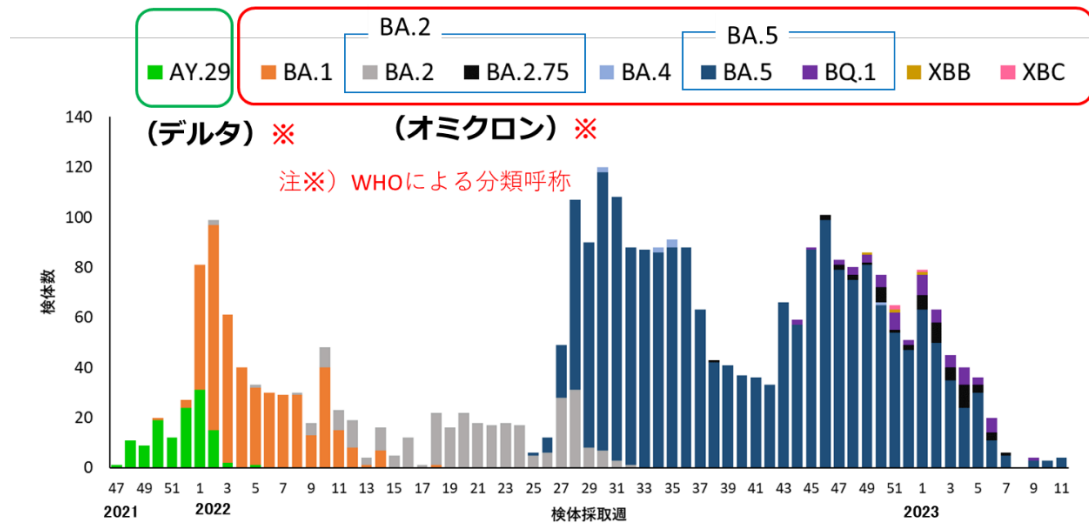


図1 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(検体数)【群馬県衛生環境研究所実施分】

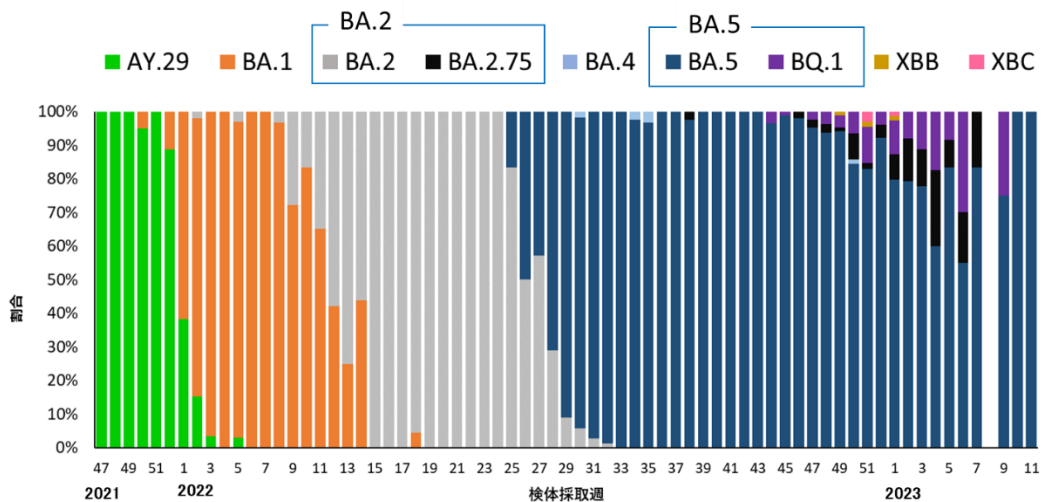


図2 新型コロナウイルス分子系統の時系列解析(割合)【群馬県衛生環境研究所実施分】